

第 20 回 観光戦略実行推進タスクフォース議事要旨

1. 日時：平成 30 年 5 月 22 日（火）16:30～17:30

2. 場所：官邸 4 階大会議室

3. 出席者：

（政府側）

菅内閣官房長官、高橋国土交通大臣政務官、梶山内閣府特命担当大臣、野上内閣官房副長官、杉田内閣官房副長官、和泉内閣総理大臣補佐官、古谷内閣官房副長官補、田村観光庁長官、平井内閣官房内閣審議官、水嶋内閣官房内閣審議官兼観光庁次長、頼内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長、井野内閣府大臣官房総括審議官、野村宮内庁長官官房審議官、和田法務省入国管理局長、飯塚財務省関税局長、常磐文部科学省生涯学習政策局長、宮田文化庁長官、山崎文化庁文化財部長、由木国土交通省総合政策局長、菊地国土交通省港湾局長、蝦名国土交通省航空局長、亀澤環境省自然環境局長、槌道防衛省大臣官房審議官

（有識者・敬称略）

梅澤高明（A.T. カーニー株式会社日本法人会長）、デービッド・アトキンソン（株式会社小西美術工藝社代表取締役社長）

（事業者・敬称略）

夏目誠（成田国際空港株式会社代表取締役社長）

4. 議題：観光ビジョンに掲げた施策のより一層の推進に向けた各府省庁における取組の報告について等

5. 議事概要

○個別テーマ（公的施設の公開・開放、文化財、空港・港湾における世界水準の旅行サービスの実現及び訪日ムスリム旅行者への対応）について、内閣官房（資料 2-1）、宮内庁（資料 2-2）、国土交通省総合政策局（資料 2-3）、文化庁（資料 3）、国土交通省航空局（資料 4-1）、国土交通省港湾局（資料 4-2）、財務省（資料 4-3）、観光庁（資料 5-1、5-2）より検討状況を説明。

○意見交換において、有識者より以下のご発言あり。

【デービッド・アトキンソン氏】

- ・空港において、最先端技術を活用した出入国の迅速化やおもてなし環境の充実に取り組むべき。
- ・政府がオーバーツーリズムの問題に取り組んでいることを対外的にも打ち出すべき。
- ・文化財における多言語解説やガイドの充実、朝食体験や夜のライトアップなどの一貫した整備やイベントによって口コミが広がることが重要。
- ・DMO は観光地の情報発信だけでなく、多言語対応など観光地の整備にもっと力を入れるべき。
- ・空港のおもてなし環境について、文化財だけでなく国立公園等の自然も PR すべき。

【梅澤高明氏】

- ・富裕層が好むコンテンツであるラグビーワールドカップをきっかけに大きな取組ができないか。
- ・また、富裕層市場の開拓に向けて、最先端医療を提供する医療ツーリズムを推進してもいいのではないか。
- ・ヨーロッパのように、我が国も歴史的な街並みの維持・保全に力を入れて取り組むべき。
- ・実務人材のみならず高度人材も含めて外国人材の活用、在留資格の緩和を検討すべき。特に重要なのは起業家的な観光ビジネスのプロデューサー人材。

【夏目誠氏】

- ・現在、毎月1回の会議を開催し、空港内の入管、税関、交通事業者及び航空会社等でこれまでの混雑時の対応や、強風・大雪等の際の対応について、情報共有を実施しながら改善に向け努力している。
- ・成田空港では混雑対策として、今後はPFM（旅客動態管理）システムを導入し、どこでどの程度の混雑があるのかを測定し、そのデータを関係先に提供することで要員の増員を依頼する等対応していきたい。

○梶山地方創生担当大臣、高橋国土交通大臣政務官、菅内閣官房長官よりご発言。主な内容は以下のとおり。

【梶山地方創生担当大臣】

- ・観光による地方創生を実現していくためには、地域の個性を活かした魅力ある観光地域づくりを進めるとともに、その地域の魅力を効果的に発信し、国内外の旅行者を全国各地に分散・拡大させ、地方への新しい「ひと」の流れをつくっていく必要がある。
- ・その中でも、観光資源の保存と活用のレベルアップによる地域の魅力向上や、世界水準の旅行サービスの実現等は、地方への外国人旅行者の流れの創出につながる重要な取組であると認識している。
- ・地方創生を担当する大臣として、関係省庁とも連携しながら、引き続き、意欲的に地方創生にチャレンジする取組に対して、情報、人材、財政の「地方創生版・3本の矢」により支援してまいりたい。

【高橋国土交通大臣政務官】

- ・今後、国土交通省としては、最先端技術の導入により、空港における旅客手続の迅速化等を図り、空港におけるFAST TRAVELを実現すること、港湾においても、増加するクルーズ船に対応し、クルーズ客の乗下船の迅速化等を図り、港湾におけるSMOOTH VOYAGEを実現すること、世界最大級の地下河川である首都圏外郭放水路をはじめ、魅力のある公的施設・インフラを大胆に開放し、インフラツーリズムを推進すること等に官民一体となって取り組んでまいり所存。
- ・また、今回の観光戦略実行推進タスクフォースにおいては、マレーシアやインドネシアなどムスリムの多い東南アジア諸国からの旅行者が増加していることを踏まえ、新たに「訪日ムスリム旅行者対応のためのアクション・プラン」を取りまとめた。

- ・ 今後はこの新たなアクション・プランに基づき、ムスリム旅行者が安心して周遊できるような食や礼拝等の受入環境整備に関係省庁一丸で取り組むとともに、ムスリムフレンドリーな日本の姿を積極的に海外に向けて発信してまいりたい。
- ・ 本日有識者の方々からいただいた貴重なご意見を踏まえ、取組を進めてまいりたい。今後ともご指導をお願いしたい。

【菅内閣官房長官】

- ・ 訪日外国人旅行者数は今年に入っても15%以上の伸びとなっている。4月25日には過去最速で1,000万人を突破するなど、勢いは衰えていない。2020年4,000万人の目標がいよいよ視野に入ってきた。
- ・ これに伴って、旅行者の動向にも様々な変化が見られている。個人旅行化が急速に進み、中国人旅行者では政権交代前の29%から、昨年は62%まで個人旅行の割合が上昇している。また、滞在先が全国の様々な地域に広がって、地方圏においても、地価が上昇に転じている。また旅行者の関心も、単なる買い物から日本でのユニークな体験に移ってきている。
- ・ こうした変化に対応していくために、魅力ある公的施設の大胆な開放、あるいは文化財に関する解説の改善、遅れている空港や港湾施設のサービスの向上、ムスリム旅行者への対応など、本日もこうした点に対して改善点が示された。
- ・ 政府としては、多くの外国人が全国津々浦々で日本の観光を楽しむことができる、真の観光先進国を実現していくために、旅行者の視点に立って、効果の高い政策を一気呵成に進めていく。皆様のご協力をお願い申し上げます。

○水嶋内閣官房内閣審議官より閉会

- ・ 本日の第20回会合はここで閉会する。なお、次回日程は追って連絡する。

以 上